

インボイス制度実施の延期、そして廃止を求める声明

フリーランスユニオン

インボイス制度がこの10月から実施されました。

しかしこのインボイス制度は、フリーランスの立場で生きる私たちの生活と人生を壊し、比喩ではなく私たちを殺す気なのか、と疑わずにおれない制度です。

インボイス制度は、「年収1,000万円以下の免税事業者で、B to B(企業相手の取引のこと)の取引のある人」全てに影響を及ぼします。ウーバーイーツの配達員、ヨガインストラクター、漫画家、文筆業、業務委託の編集者、役者、芸人、歌手、農家…etcの仕事に就いてる人にとってはこれから続けられるのかと不安にさせられる制度であり、そしてこれらの仕事に就きたいと思う人の気持ちを挫くのがインボイス制度なのです。さてインボイスとは消費税の支払方法を変えるという非常にわかりにくいやり方で、お金のないものから税を取り立てる制度です。インボイス発行事業者となり消費税を納めるか、あるいはインボイス発行事業者にならない場合は、その仕事の取引先である企業に消費税を負担させるかという二択をフリーランスに迫ります。

インボイス発行事業者になれば多くのフリーランスは年収減が見込まれ、インボイス発行事業者にならない場合、消費税負担を避けたい企業から取引停止を迫られる可能性があります。実際に減額されたり、取引停止を促された仲間もいます。

勘違いしないで頂きたいのはこの1000万という数字は総売上額であり、手元に残るお金が1000万なのではありません。必要経費はそこから出て行ってしまいます。そしてフリーランスの間では、総売上ですえ総売上1000万など達する人々はほとんどいません。

お金のないものから税を取り立て、仕事を奪う制度なのです。

これは公平な税制と言えるのでしょうか？

そして免税事業者と聞くと、税金を払わないで済むズルい奴らだと勘違いする人たちもいます。しかし免税事業者とは消費税法九条のもとで規定されており、ことさらズルく脱税をしてるわけではありません。そして肝心なのは消費税は消費者からの預かり税などでは全くありません。

消費税は1989年に導入された当初から収入の低い立場に負担の大きい税制であることが危惧されていましたが、インボイス制度は、消費税のもつ本質的な問題を明らかにしたと言えます。

インボイス制度実施の延期、そして廃止を求めます。